

土地改良事業計画概要書

第1章 目 的

昭和 30 年代に行われた一次整理により一筆 30a 程度に整理されたエリアが一部あるものの、大半が一筆 10a 程度の未整備エリアであり、用排水路の老朽化が著しく営農や維持管理に苦慮しているほか、近年の大型機械では農業生産が低い状況にある。

このため、ほ場整備により生産効率の向上を図ることで、担い手への更なる集積・集約化を進め、農地の保全及び地域農業の維持に繋げたい。

第2章 地域の所在及び現況

1) 地域の所在及び地形

本地域は、白山市中心部から南東約 7km の手取川扇状地の扇頂部に位置する平地農業地域である。地形は 1/50～1/300（平均 1/70）の地形となっている。

2) 土質及び土壌

本性は、粘性のレキ質土壌に分類され、堆積様式は水積よりなっている。

3) 気象

北 陸 型	1 2 月上旬～3 月中旬積雪
年 平 均 気 温	1 5.0℃
年平均降水量	2, 4 0 1. 5 mm

4) 水利状況

用 水	本地区は高橋川から取水し、開水路によりかんがいしている。
排 水	支線排水路から高橋川及び富樫用水へ自然排水している。

5) 営農状況

基幹作物は水稻で、地区内の多くはすでに担い手により営農を行っているが、農業基盤整備に伴い、担い手への更なる農地集積を促進し、低コスト農業を実現するとともに、地域水田農業の振興を図る。

第3章 基本計画

ほ場整備	22.1ha
整地工	区画 50a 区画 (100×50)
	表土扱い 土壌肥培管理

用水路工	高橋川を水源とし、フリュームによる自然流下方式で対応する。
排水路工	フリュームで整備し、地形勾配を利用した自然流下方式で対応する。
道路工	幅員5～4m（有効幅員4～3m）の全線砂利舗装とする。

第4章 工事又は管理の要領

工事は県営事業で全て請負施工とし、令和9年度～令和14年度の6年間で施行する。
また、本事業により新設又は更新された土地改良施設の維持管理は、鶴来土地改良区が行うものとする。

第5章 換地計画の要領

地積の基準	換地交付の基準とする従前の土地の地積は、土地改良事業計画確定の日の土地登記簿地積とする。 ただし、確定換地設計基準作成時までに、各人により地積更正登記がされた場合にはその地積とする。
土地評価方式	評価委員を選出し、自然的、利用条件等を基本にした、標準値比準方式を採用する。また、従前と換地の評価額については、後日委員会において検討協議の上決定する。
清算方式	比例地積清算方式
換地	・換地委員を選出し、集団化を図る。 ・概ね2団地を目標に換地する。

第6章 費用の概算

総事業費	752,000千円
うち工事費	700,000千円

第7章 効用

作物生産効果	329,623千円
営農経費節減効果	195,486千円
維持管理費節減効果	△16,713千円
農業労働環境改善効果	51,456千円
景観・環境保全効果	10,662千円
国産農産物安定供給効果	53,582千円
水田貯留機能向上効果	456,026千円

総便益額（現在価値）	1,080,122千円
------------	-------------

$$\text{総費用総便益比} = \frac{1,080,122}{760,357} = 1.42$$

（経済効果算定基準年：R8年度）

第8章 他の事業との関係

特になし

第9章 計画概要図

別紙のとおり

第10章 環境との調和への配慮

水路などを利用し生物の生息可能空間の保全に努める。

令和9年度新規採択希望 県営ほ場整備事業(面的集積型)

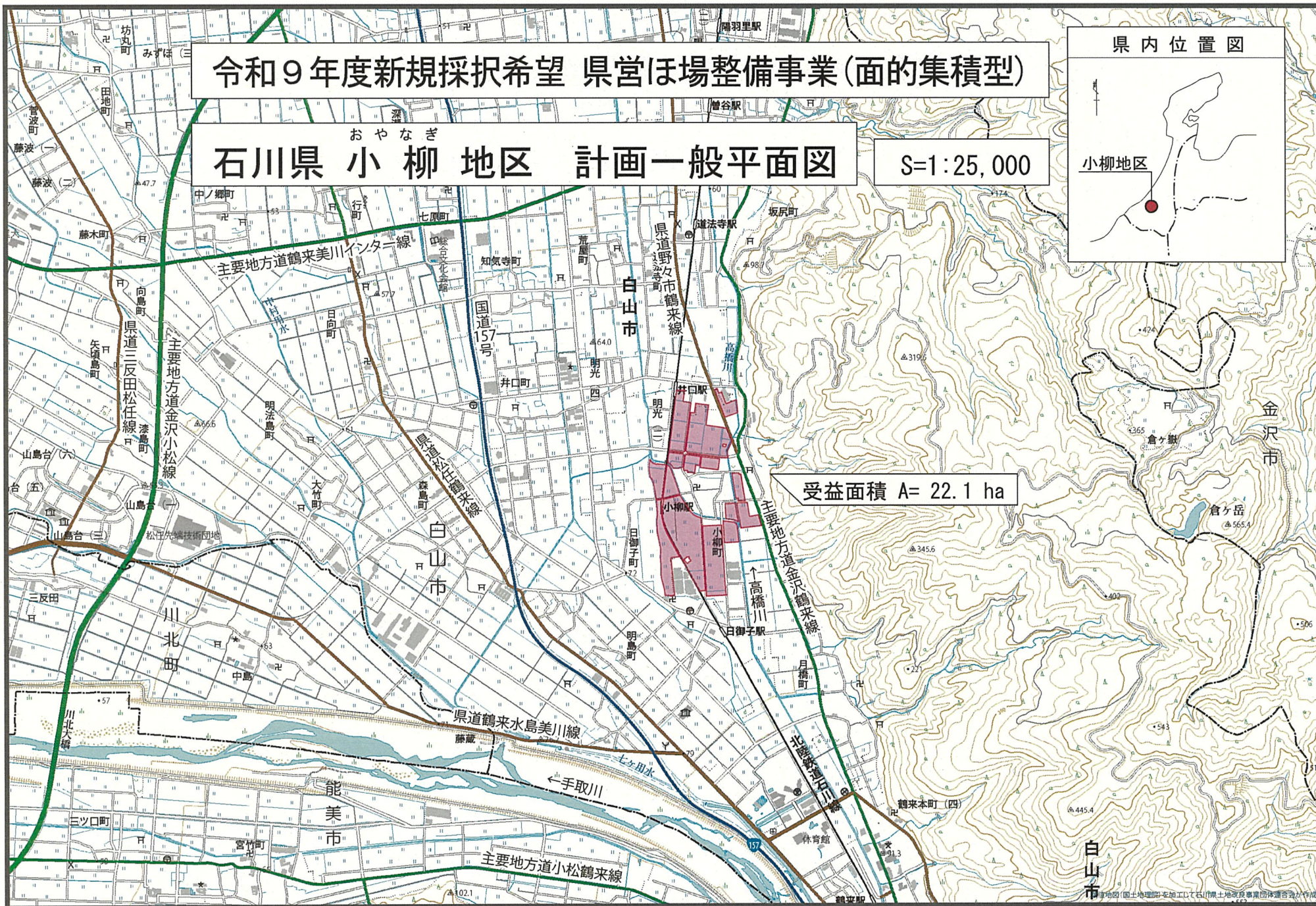
石川県 小柳地区 計画一般平面図

S=1:25,000

県内位置図



受益面積 A= 22.1 ha

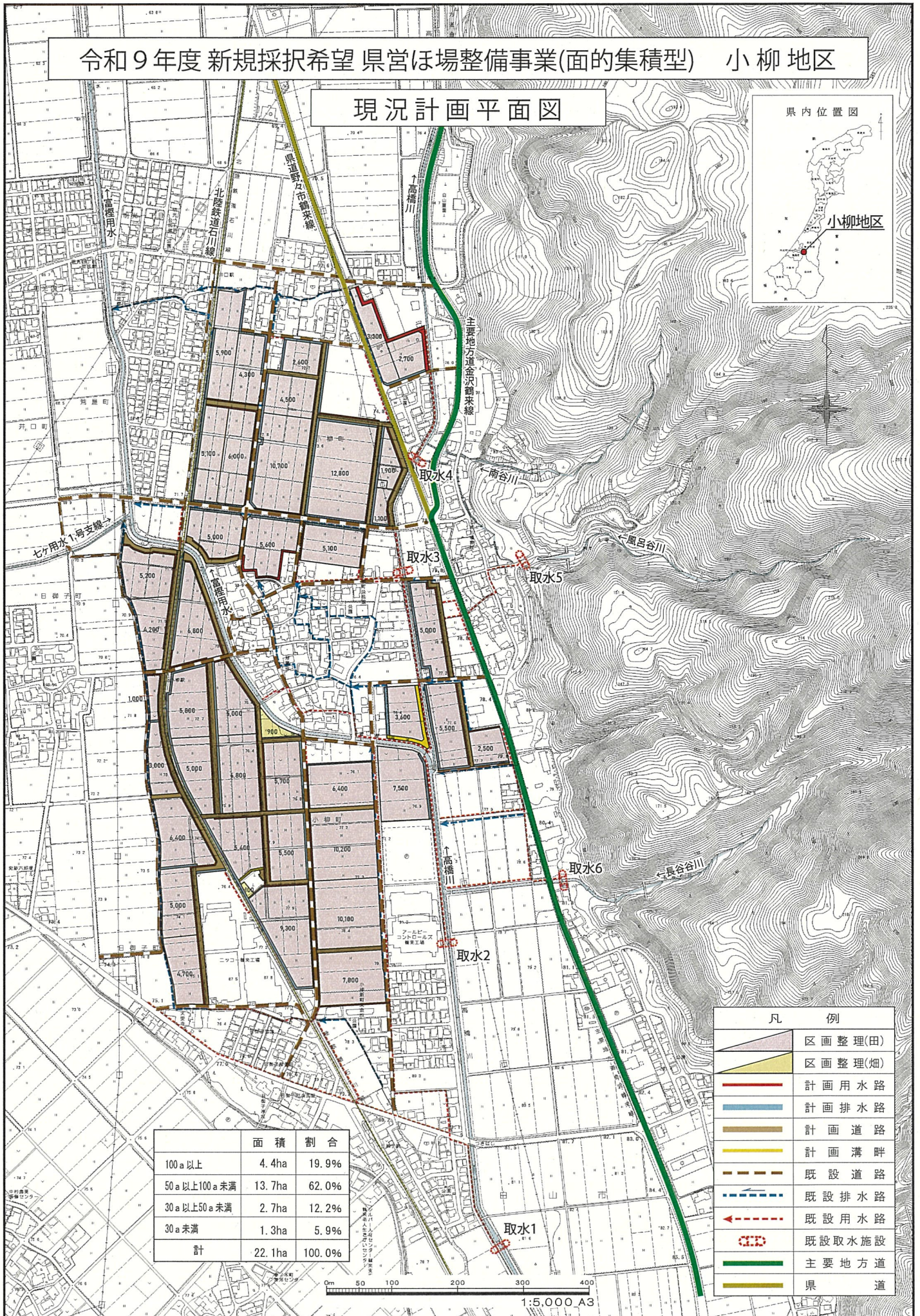


令和9年度新規採択希望 県営ほ場整備事業(面的集積型) 小柳地区

現況計画平面図

県内位置図

小柳地区



凡 例	
	区画整理(田)
	区画整理(畑)
	計画用水路
	計画排水路
	計画道路
	計画溝畔
	既設道路
	既設排水路
	既設用水路
	既設取水施設
	主要地方道
	県道

	面積	割合
100a以上	4.4ha	19.9%
50a以上100a未満	13.7ha	62.0%
30a以上50a未満	2.7ha	12.2%
30a未満	1.3ha	5.9%
計	22.1ha	100.0%

1:5,000 A3